

# 印西市域の庚申塔と女人講の石塔



小倉の光堂（宝珠院観音堂）  
文化10年（1813）の子安像塔



本埜村中根の福聚院  
寛文9年（1669）の十九夜塔



船尾 東光院  
延享3年銘（1746）の庚申塔

## 印西市域は江戸初期からの民間信仰の石塔の宝庫

庚申塔 : 寛文元年(1661)から 636基  
十九夜塔 : 寛文5年(1665)から 381基  
子安像塔 : 宝暦3年(1753)から 252基



戸神 宗像神社 庚申塔群  
左から 明和3年(1770)・文政元年(1718)・享保12年(1727)



小林 光明寺 十九夜塔群



船穂 東光院 子安塔群

## 庚申塔とは

庚申待は、60日に1回庚申の夜に、三尸が眠った人間の体から抜け出し天帝にその人の罪過を告げに行かないよう徹夜するという、中国の道教に由来した信仰でした。

室町時代ごろからは、各地で「**庚申講**」が行われ、**庚申供養塔**も建てられました。

中世は「板碑」、江戸時代初期からは、願文を刻んだ板碑型石塔や、**三猿**とともに如来や菩薩像を浮彫した石仏が作られるようになり、寛文期からは、**青面金剛**を**本尊**とする庚申塔も現れ始めます。

江戸中期には、青面金剛像に、日月や三猿（見ざる・聞かざる・言わざる）、邪鬼や鶏を伴う手の込んだ彫りの石塔が流行、またその憤怒の形相に悪魔退治の願いを込め、村の入り口などに建てられるようになりました。

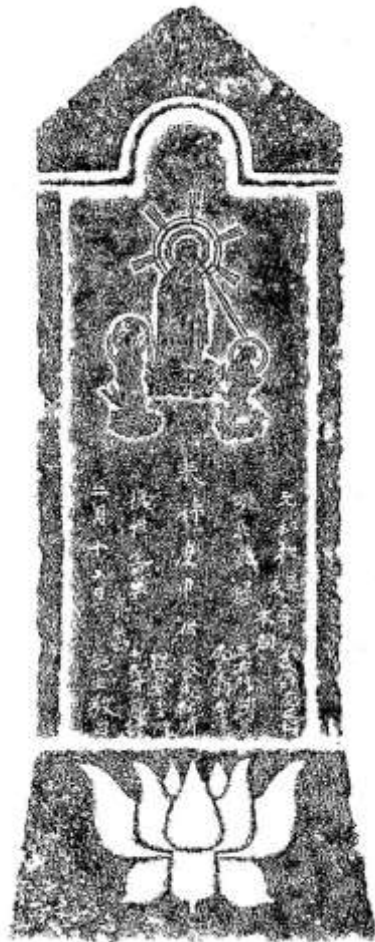


造谷 路傍 庚申塚  
宝永3年(1706)

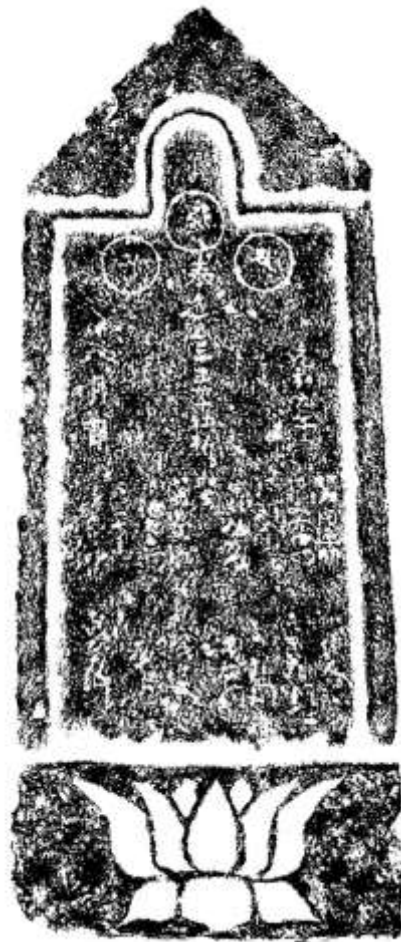


物木村入口の庚申塔群

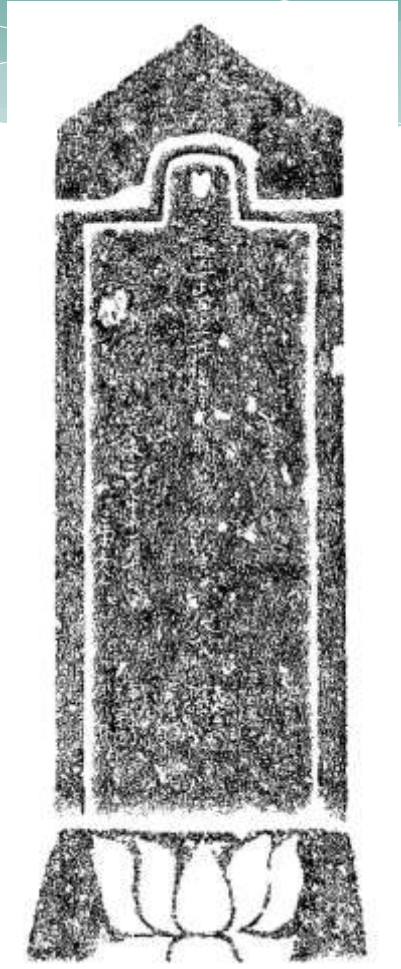
## 近世庚申塔の関東での初出



足立区正覚院  
弥陀三尊来迎塔  
元和9年（1623）



三郷市常楽寺  
山王廿一社文字塔  
元和9年（1623）



松戸市幸谷観音 山王廿一社文字塔  
「奉南無山王二十一社庚申祈為  
現世安樂後生善處也」  
寛永2年（1625）

## 近隣の初期の庚申塔



佐倉市先崎 慶安3年(1650) 地藏菩薩像  
「奉造立庚申人数廿五人／先崎村／  
本願友野河内／慶安三天／庚寅／二月廿四日」



八千代市高本八幡神社 万治3年(1660)  
「万治三天庚子十月吉日 為庚申待現當二世悉地成就処  
講人数十八一結諸衆 敬白」



## 青面金剛像のない初期の庚申塔



竹袋観音堂  
寛文元年 (1661)



武西百庚申の隣  
寛文10年 (1670)



押付4水神社  
延宝3年 (1675)



大森長楽寺  
天和3年 (1683)

## 初期の青面金剛像のさまざまな姿



砂田庚申堂内  
寛文11年(1671)



物木317 庚申塚  
貞享3年(1686)



中田切38白山神社  
貞享4年(1687)

## 複雑化する庚申塔の像容



上町観音堂  
元禄13年(1700)  
道標を兼ねる



吉高 十三仏板碑付近  
元禄 13年(1700)



大森長楽寺  
正徳5年(1715)



結縁寺青年館  
享保17年(1732)



## 変化する三猿の姿



中田切白山神社  
正徳2年(1712)



下曽根市杵島神社  
享保3年(1718)



松崎火皇子神社  
享保6年(1721)



戸神宗像神社  
明和7年(1770)



## 画一的な特徴の青面金剛と三猿像



笠神古墳群  
寛延2年(1749)



佐野屋八幡神社  
宝暦2年(1752)



物木317庚申塚  
宝暦4年(1754)



向公会堂  
宝暦6年(1756)

印西市域・白井市・船橋市の東部・我孫子市・柏市・栄町で  
享保から宝暦年間(1718~1763)に特徴的な庚申塔

- ・主尊の目がアーモンド形
- ・右手に鈴状または人の頭部らしき袋状のものを持つ
- ・宝輪を持つ手が直角で水平
- ・迫力がない邪鬼がうづくまる姿
- ・中央が正面、両端が横向きの三猿像の構図

## 印西市域と周辺の百庚申 I



柏市布瀬路傍の百庚申 文政7年(1824)～明治8年(1875) 像塔9基と文字塔(「庚申塔」)94基



印西市浦部の百庚申天保10年(1839)  
像塔10基と文字塔(「庚申塔」)90基



## 印西市域と周辺の百庚申 II



砂田の百庚申 小林・猿田彦神社  
天保6年(1832)～明治元年(1866)



砂田庚申堂内  
寛文11年(1671)



### 印西市域と周辺の百庚申 III



武西の百庚申 武西学園台3丁目 文久3年(1863) 像塔10基と文字塔(「庚申塔」)90基

## 印西市域と周辺の百庚申 IV



松虫の百庚申  
文政12年(1829)  
路傍2か所に再設置

像塔100基



## 印西市域と周辺の百庚申 IV-2



ニュータウン開発前の松虫の百庚申

# 印西市域と周辺の百庚申 V

## 笠神社の百庚申



上:左側(北側)の列の奥には慶應二年塔が並ぶ



像塔18基と文字塔(「庚申塔」)82基

慶應三年塔が並ぶ右側(南側)の列





明治16年(1883)～昭和10年(1935)銘の像塔6基と文字塔54基の計60基

## 自然石の百庚申



匝瑳市大浦・路傍の飯岡石の百庚申

## 一石百庚申



印西市松崎・火皇子神社  
「庚申百社参詣供養塔」  
文化13年(1816)  
参詣型一石百庚申

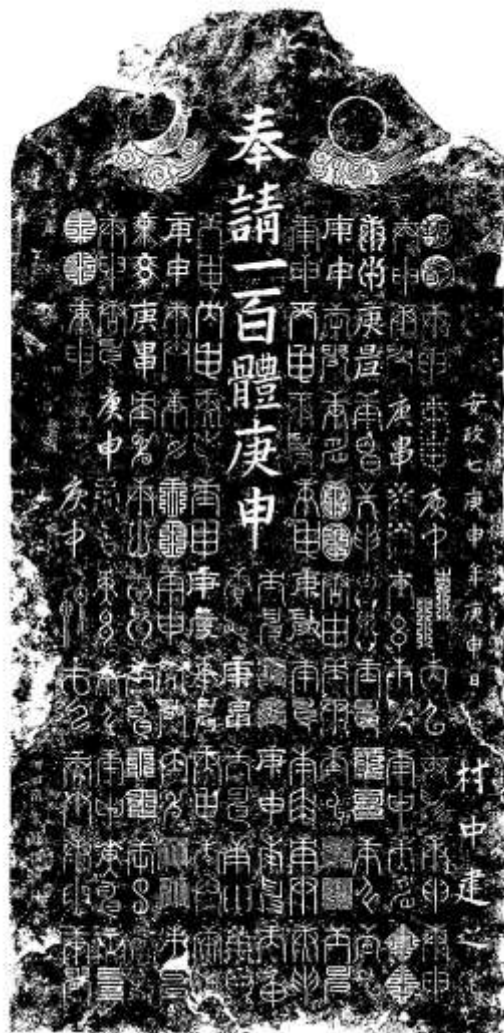


八千代市麦丸台・庚申塚  
「一百青面金剛王」  
文化12年(1815)  
百体型一石百庚申

# 百体型一石百庚申



群馬県倉淵  
百体青面金剛塔  
寛政6年銘(1792)



長野県野底「奉請一百體庚申」  
百書体庚申塔  
安政七年銘(1860)



群馬県総社町「猿田彦大神」  
百書体庚申塔  
万延元年(1860)

## 十九夜塔とは

旧暦19日の夜、女性が寺や当番の家に集まって、講を開き、如意輪観音の前で経文、真言や和讃を唱える行事を「十九夜講」と呼び、関東北東部で盛んに行われていました。

十九夜講が、祈願の信仰対象あるいは成就のあかしとして建立する石塔が「十九夜塔」で、主に、右手を右ほほに当て首をかしげ、右ひざを立てて座る姿の如意輪観音像が主尊として彫刻されています。



文政10年(1827)鎌苅東祥寺

「十九夜念仏供養 二世安楽」などの銘文と、如意輪観音像を刻んだ典型的な十九夜塔が盛んに建てられるようになるのは、千葉県内では、寛文5年(1665)印西市(小倉青年館)からで、印西市内では寛文10年までに12基が建てられています。

なお、千葉県内のその頃の像容は、二臂より六臂の如意輪観音像が多く、またまれに聖観音像や地蔵像の十九夜塔も見られます。



寛文5年(1665)小倉青年館

# 印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -1 初期



寛文5年(1665)  
小倉青年館



寛文6年(1666)  
山田円蔵寺



寛文8年(1668)  
大森古新田青年館



寛文8年(1668)  
和泉青年館

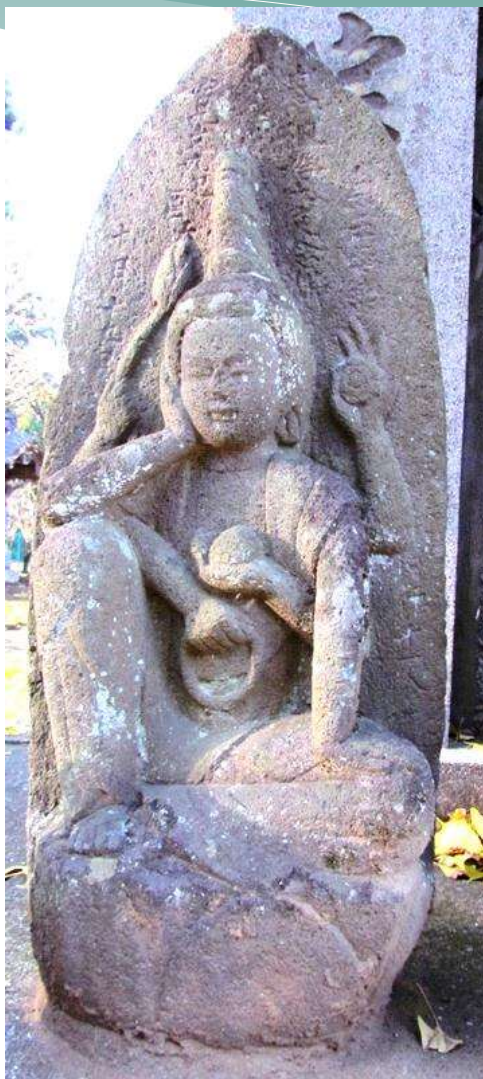


寛文8年(1668)  
別所地藏寺

印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -2 初期



寛文8年(1668)  
松虫寺



寛文9年(1669)  
中根福聚院



寛文9年(1669)  
小林 光明寺

印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -3 初期



寛文11年(1671)  
戸神青年館



寛文12年(1672)  
印旛村平賀観音堂



寛文13年(1673)  
竹袋観音堂

印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -4 江戸中期



延享元年(1744)  
宗甫観音堂



天明2年(1782) 小林 光明寺



寛政元年(1789) 中央公民館前  
「江戸道」道標



文政10年(1827) 鎌苅 東祥寺



## 千葉県内の十九夜塔の初出をめぐって



千葉県で一番古い十九夜塔は、香取市石納の結佐大明神境内の石塔  
中段に「キリーク」の梵字  
台石に「承応元年(1652)壬辰年／十九夜侍之供養／十二月十九日」の銘



山武郡芝山町加茂普賢院  
明暦元年8月(1655)造立の六地藏  
立像の石幢  
「奉新造立石地藏十九夜侍」の銘



山武市本須賀の大正寺  
万治2年(1659)宝篋印塔  
「上総国山辺庄武射郡南郷本須賀村  
奉唱満十九夜念佛二世安隠之所  
萬治二年己亥三月十九日  
結衆七十五人敬白」の銘

# 十九夜塔の発祥地-筑波山ろくの石塔



つくば市平沢の八幡神社



つくば市平沢官衙跡(復元)



石造六角地蔵宝幢  
(16世紀末)



「寛永九年(1632)三月十九日 願主敬白」と刻した石塔

雲母片岩に稚拙な彫りで  
日月と蓮華座に座す仏像を  
刻む

「十九日」の日付から、観  
音坐像を彫った十九夜供養  
塔で筑波町最古とされている



## 茨城県利根町の十九夜塔



利根川  
栄橋利根町側から  
印西市方面



寛永15年(1638)  
利根町大平神社  
「念佛之」「九月十九日」銘



寛文10年(1670)  
利根町押戸毘沙門堂



元禄16年(1703)  
利根町大平神社

## 如意輪観音を主尊とした十九夜塔の初出



茨城県利根町布川の徳満寺  
 最古の如意輪観音像の十九夜塔 万治元年(1658)銘  
 4手の如意輪観音を線彫りした板碑型の塔  
 左は時(斎)念仏塔 元禄14年(1701)



木像地藏菩薩立像(子育て地藏)



江戸時代地蔵市の様子(利根川園志 赤松宗旦著)



# 十九夜塔の分布

## 十九夜塔の分布

千葉県北部、茨城、栃木、埼玉、福島県の一部に多い  
特に利根川流域を中心に、「古鬼怒湾」あるいは「香取の海」といわれる霞ヶ浦から印旛沼・手賀沼を含む湖沼から遡上する河川沿岸の村々ひろがる

## 初期の十九夜塔造立数

利根川とその支流の小貝川・手賀川・長門川・利根常陸川の流入地点が早い段階から十九夜塔普及の地域となっている

## 十九夜塔の関東各県別の数

栃木県	2702基
茨城県	1672基
福島県	1449基
千葉県	1175基 *
群馬県	142基
埼玉県	108基

中上敬一氏の2005年報告

\* 石田年子氏の2011年の集計で  
千葉県 1997基

## 初期の十九夜塔造立数

寛文10年(1670)まで

### 茨城県側

利根町	10基
伊奈町	7基
取手市	6基
藤代町	3基
鹿嶋市	3基

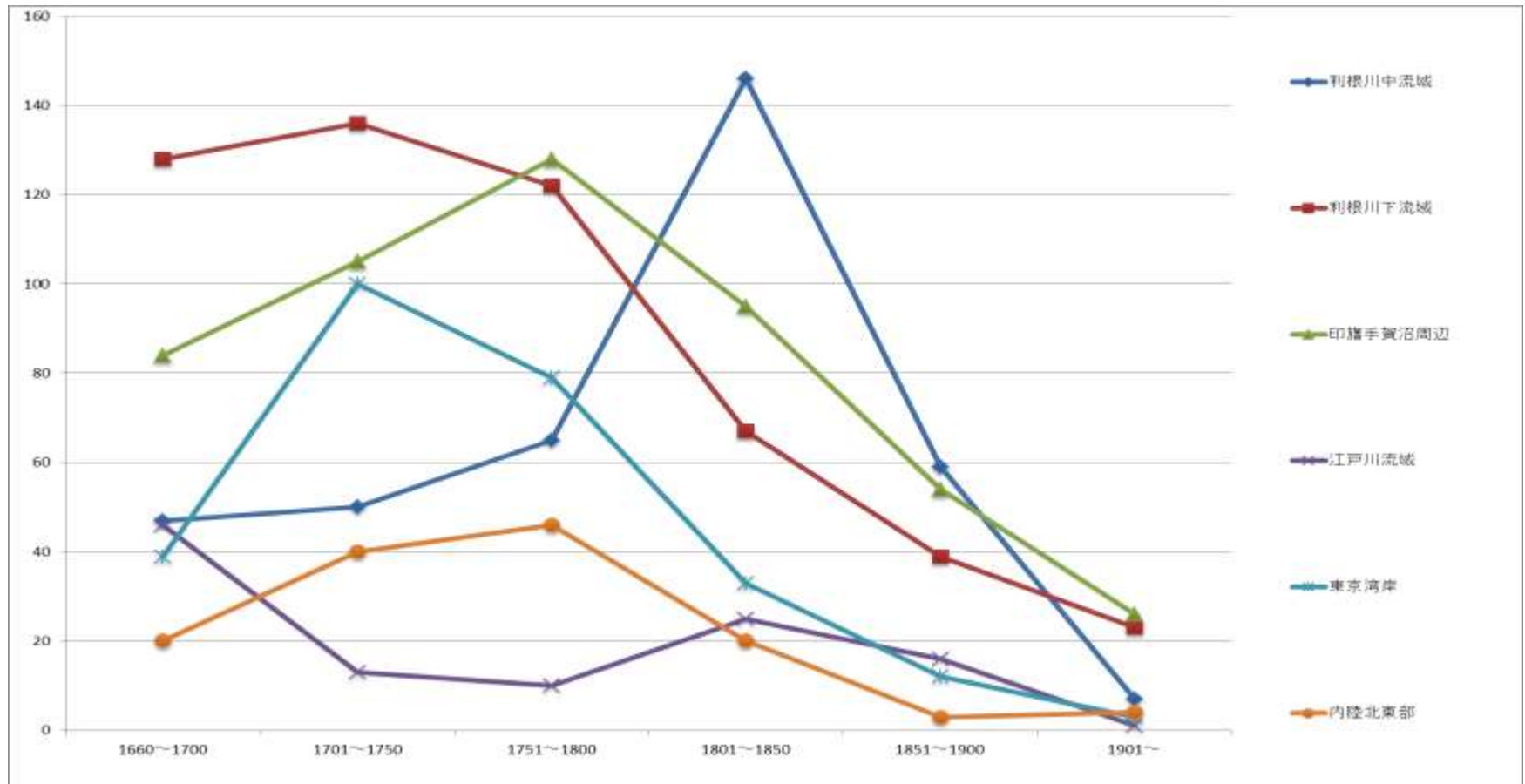
### 千葉県側

印西市	12基
佐原市	6基
印旛村	6基
我孫子	5基



西暦	利根川中流域	利根川下流域	印旛手賀沼周辺	江戸川流域	東京湾岸	内陸北東部	計
1660～1700	47	128	84	46	39	20	364
1701～1750	50	136	105	13	100	40	444
1751～1800	65	122	128	10	79	46	450
1801～1850	146	67	95	25	33	20	386
1851～1900	59	39	54	16	12	3	183
1901～	7	23	26	1	3	4	64
不明	9	41	24	5	18	9	106
合計	383	556	516	116	284	142	1997

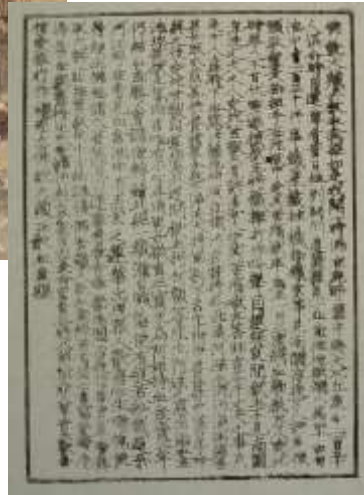
エリア	市町村名						
利根川中流域	野田	柏	我孫子				
利根川下流域	印西	栄町	成田	佐原	東庄	小見川	
印旛手賀沼周辺	沼南	鎌ヶ谷	白井	八千代	佐倉	酒々井	印旛 本埜
江戸川流域	市川	松戸	流山				
東京湾岸	船橋	習志野	千葉				
内陸北東部	四街道	富里	大栄	山田	八日市場		



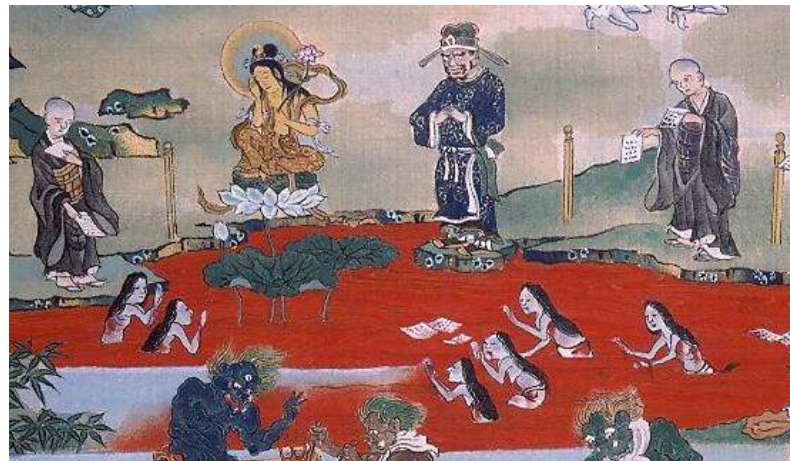
## 十九夜塔の主尊は なぜ如意輪観音なのか



「熊野観心十界図」六道珍皇寺所蔵



血盆経(富山県立山博物館所蔵)



立山曼荼羅 吉祥坊本(血の池地獄)〔個人所蔵〕

「十九夜念仏和讃」=毎月十九日に集まって、十九夜念仏を唱えれば、血の池地獄に墮ちた女人を如意輪観音が救済してくださる

「血の池地獄」=「血盆経」という室町時代に中国で成立・伝来した差別的な偽経に出てくる地獄

月経とお産で流す血の穢れから女性が逃れられない恐ろしい死後の世界

「如意輪観音=血の池地獄の救済者」

何故血盆経信仰と結びついたのかは、中国における問題であり、その理由は定かではない。

京都六角堂(『聖徳太子=如意輪観音』化身説)⇒「血の池観音図」⇒16世紀後半の岡崎満性寺に伝来

熊野比丘尼の「観心十界図」(血の池・不産女地獄)絵解き=血盆経信仰を勧め、血盆経を頒布した

熊野は女性の不浄”を厭わぬ聖地

⇒熊野比丘尼により女性達がより積極的に血盆経信仰を受け入れる道を拓く

⇒宗派内を越え、如意輪観音が絵画を通して広く各地に定着

血盆経護符の携帯=不浄を他に及ぼさず、死後の成仏を約束⇒安産のお守り⇒関東では正泉寺が喧伝

高遠奈緒美「血盆経信仰の諸相」から

## 子安塔とは

### 子安像塔とは

子安観音・子安明神など、乳幼児を抱いた神仏像が刻まれている石塔や石祠

### 子安塔とは

子授け・安産・子供の健やかな成育を祈願するために子安講などのムラの女性たちが造立した石塔や石祠

子安像塔のほか、「子安観音」「子安明神」などの文字碑や石塔を含む

### 子安講とは

江戸時代、二世安楽を念誦する念仏講から女人成仏を如意輪観音に祈願する十九夜講へ

さらに、江戸後期からムラのお嫁さんが安産子育てのご利益と親睦を目的に集う子安講へ



安永5年(1776)  
瀧水寺(旧本埜村)



## 印西市の子安塔-1



元文3年(1738)  
宮内 鳥見神社  
「子安大明神」石祠



文化3年(1806)  
宮内 鳥見神社



安永5年(1776)  
滝 瀧水寺



安永8年(1779)  
宮内 下曾根市杵島神社

二児がいる子安像塔（旧本埜村&栄町）



安永5年(1776)  
本埜村瀧水寺



安永3年(1774)  
栄町 南集会所



安永8年(1779)  
栄町押付 善勝庵



寛政2年(1790)  
栄町 三和青年館跡

## 印西市の子安塔-2



宝暦5年(1755)  
行徳 稻荷神社



明和元年(1764)  
平賀 不動堂



明和元年(1764)  
平賀 観音堂



寛政8年(1796)滝 瀧水寺

## 印西市の子安塔-3



天明4年(1784)  
岩戸 高岩寺  
「十五夜」



天明7年(1787)  
松崎 火皇子神社



文化4年(1807)  
小林光明寺



文化7年(1810)  
和泉会館



文化8年(1811)  
造谷真珠院

## 印西市の子安塔-4



文政2年(1819)  
岩戸高岩寺



文政13年(1830)  
行徳稲荷神社



嘉永4年(1851)  
発作巖島神社



嘉永7年(1854)  
戸神青年館

# 印西市の子安塔-5



安政4年  
(1857)  
別所  
地藏寺



安政6年  
(1859)  
泉集会所



明治8年  
(1875)  
大廻墓地



明治11年  
(1878)  
山田 集会所



明治19年  
(1886)  
戸神青年館



明治19年  
(1886)  
岩戸不動尊



大正7年  
(1918)  
小林  
光明寺

## 印西市の子安塔-6

幕末から現代へ 定番型の子安像



安政4年(1857)  
印西市別所地藏寺



明治19年(1886)  
印西市戸神青年館



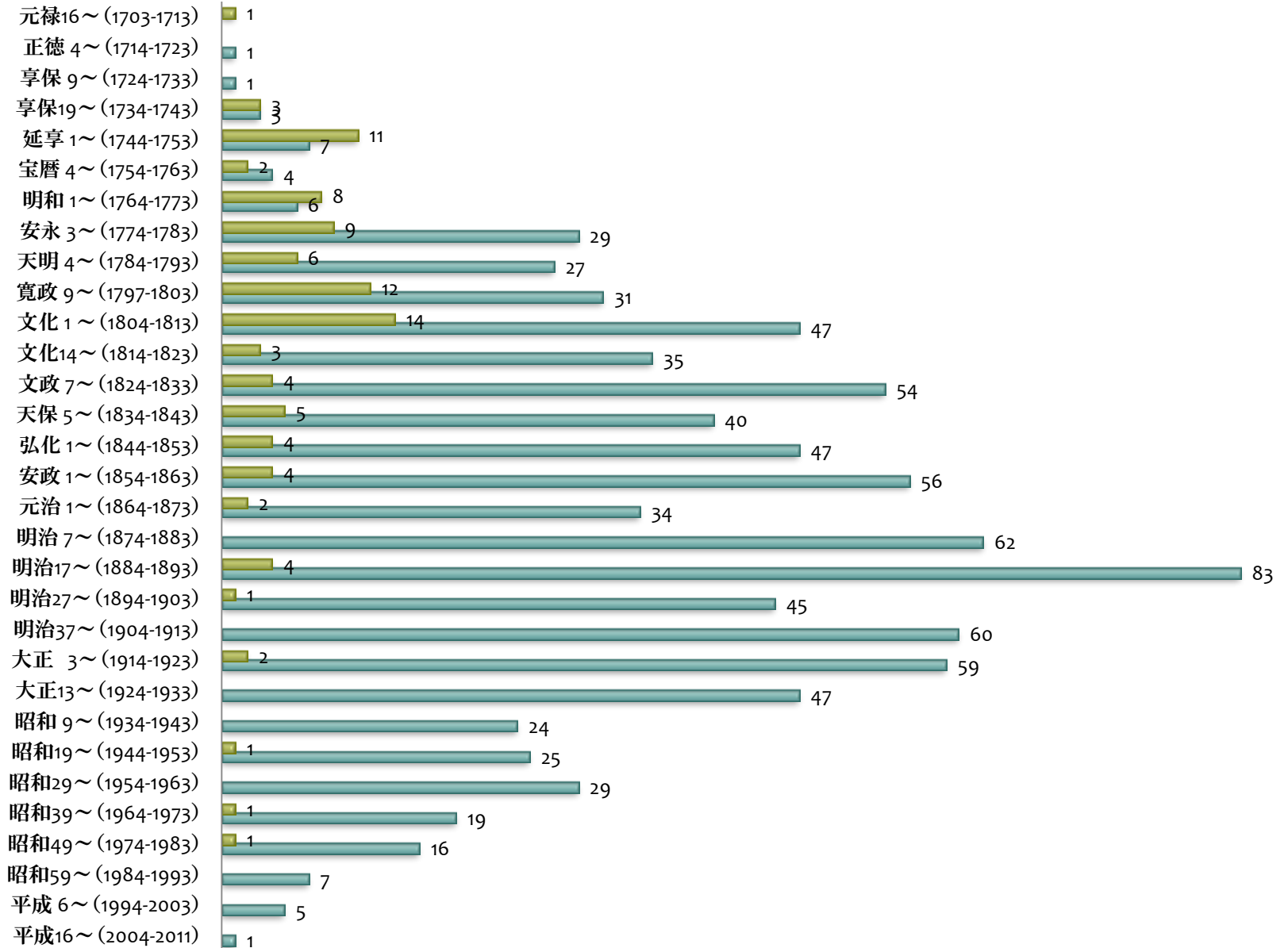
大正8年(1919)  
白井市仏法寺



昭和56年(1981)  
八千代市村上辺田前公会堂

# 北総の子安塔数の推移

■ 文字のみの子安石塔・石祠    ■ 子安像塔数(墓標仏を含む)





# 北総の子安塔の初発 酒々井町の子安像塔



享保 18年(1733)



宝暦元年(1751)  
尾上 住吉神社



元文5年(1740)  
柏木新光寺跡墓地

# 北総の子安塔 石祠に浮彫された子安像塔



延享元年(1744)  
酒々井町下岩橋 大仏頂寺



明和 7年 (1770)  
酒々井町伊篠 白幡神社



天明3年(1783)  
佐倉市大佐倉 麻賀多神社

北総の子安塔 如意輪観音の思惟相の子安像塔



宝暦4年(1754)  
酒々井町酒々井朝日神社



安永5年(1776)  
酒々井町酒々井新堀



宝暦12年(1762)  
成田市松崎 富宮神社



天明3年(1783)  
成田市飯仲住吉神社

# 北総の子安塔 下総町(現成田市)と成田市北須賀の子安さま



明和元年(1764) 下総町 高・台十字路



左は 天明8年(1788)の如意輪観音十九夜塔 北須賀白旗神社 天明2年(1782)

# 子安塔成立のルーツ 袖ヶ浦市百目木の子安様-1



子安塔成立のルーツ 袖ヶ浦市百目木の子安様-2



## 白磁の観音像



マリア観音像  
(東京国立博物館蔵)  
長崎奉行所旧蔵品  
(明～清時代・17世紀  
徳化窯



福昌寺白磁観音像  
(長野県山ノ内町)



マリア観音像(東京国立博物館蔵)  
安政三年長崎奉行所収納  
明～清時代・17世紀徳化窯



旧見王寺白磁観音像  
(長野県山ノ内町)



白磁マリア観音半跏倚像  
(長野県松代町)



白磁製マリア観音像  
(千葉県大多喜町)

北総における子安像塔の出現と系譜(江戸時代中期)

